

猿 橋
小学校

瑛玖良

瑛玖良校は明治期における猿橋小の旧名。切磋琢磨の意が込められている。

体験して育つ

校長 澁谷 一男

1階教室のベランダのアサガオが見頃だ。整然と並べられた鉢の風情は、さながら朝顔市のような。一つ一つの花は、ちょうど1年生が広げた手のひらのようで、何とも愛らしい。

一方、その向かいの畑に3年生が植えたヒマワリは、見上げるほど大きくなった。栽培・飼育活動は、大切な体験学習の一つである。

以前、出張で香川県に行ったときのこと。香川県と言えば、「ため池」が多いことで有名だと中学校の地理で習ったことを思い出した。学習で得た「知識」である。

移動途中の車窓から見える景色は、新潟とは随分違っているのに驚いた。まず、山が近い。そして、低い。これでは山に大量の水を蓄える力はないだろうと思った。更に、大きな河川もない。讃岐山脈から瀬戸内海までは30kmほどしかなく流れも急なため、十分な水の確保が困難なのだそう。その上降水量が少ないとすれば、渇水が多く起こるのも無理からぬことだ。この地の人々は、古くから渇水に苦しめられたことだろう。「ため池」は、この地で農業用水を確保するための人々の知恵だったのだ。百聞は一見にしかず。実際に目で現地の風景を見ることによって、それまでの「知識」が確かな「理解」に変わる思いがしたのをよく覚えている。

今年も6年生の「佐渡体験学習」に同行した。佐渡の歴史、文化、自然を見て、聞いて、体験する二日間だった。班別体験では、「イカ裂き」に随行。生のイカを裂いて一夜干しにする。一杯目はぎこちない手つきで苦戦していた子どもたちも、二杯目になると要領を得たようだ。下から上に器用に切れ目を入れていく。目玉や内蔵も潰さぬように上手に取り除き、きれいな一夜干しができた。子どもたちの吸収力に改めて感心する。

ある調査によると、幼少期から中学生までの体験が多い高校生ほど、思いやり、やる気、人間関係づくりなどの能力が高いという結果が得られているという。さらに、小学校低学年までは友達や動植物との関わりが、小学校高学年から中学生までは地域活動、家事手伝い、自然体験等が有効であるというデータもあるようだ。また、豊かな体験は、言葉や想像力を豊かにし、コミュニケーション能力も高めるといふ。

長い夏休み、子どもたちにはどんな体験が待っていることか。

